

# 「アトピー性皮膚炎を理解するために」

講師：土田哲也 埼玉医科大学皮膚科教授

## プロフィール



昭和 53 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業  
昭和 53 年 6 月 東京大学医学部皮膚科研修医  
昭和 54 年 1 月 東京大学医学部皮膚科文部教官助手  
昭和 58 年 10 月 米国 UCLA メディカルセンター、  
postdoctoral fellow (腫瘍免疫の研究)  
昭和 60 年 11 月 東京大学医学部皮膚科文部教官講師  
平成 7 年 7 月 埼玉医科大学皮膚科助教授  
平成 10 年 4 月 埼玉医科大学皮膚科教授

## 学会活動

日本皮膚科学会（代議員）、日本皮膚悪性腫瘍学会（理事）、日本皮膚病理組織学会（理事）、日本皮膚アレルギー学会（評議員）、日本色素細胞学会（評議員）、日本乾癬学会（評議員）、皮膚脈管懇話会・膠原病研究会（世話人）、The International Dermoscopy Society (Board Member)、The Society for Investigative Dermatology、その他

## 【講演要旨】

1. アトピー性皮膚炎を理解するために、まず、蕁麻疹と接触皮膚炎（かぶれ）の病態を勉強しましょう。

蕁麻疹の中でアレルギー性蕁麻疹は I 型アレルギー（即時型アレルギー：IgE と肥満細胞が主役）で生じます。一方、接触皮膚炎（かぶれ）の中でアレルギー性接触皮膚炎は IV 型アレルギー（遅延型アレルギー：T リンパ球とランゲルハンス細胞が主役）で生じます。

2. 接触皮膚炎の症状は、「湿疹」です。では、「湿疹」とは何でしょう？

「湿疹」とは一つの症状名です。急性期には「赤くて、ブツブツ、ジュクジュク、痒いもの」、慢性期には「赤くて、ゴワゴワ、ガサガサ、痒いもの」です。「湿疹」という症状をきたす疾患を、まとめて「湿疹・皮膚炎群」といい、その中に、「接触皮膚炎」や「アトピー性皮膚炎」が含まれます。従って、アトピー性皮膚炎の皮膚症状は、接触皮膚炎と同様に「湿疹」です。

3. アトピーの語源は「奇妙な」というギリシャ語に由来します。何か「奇妙な」点があ

るのでしょうか？

アトピー性皮膚炎は接触性皮膚炎と共通の「湿疹」が主症状であるのも関わらず、検査をしてみると IgE が主役の I 型アレルギーが関与する所見がみられます。すなわち、アトピー性皮膚炎は、IV型アレルギーにより生じる接触皮膚炎と類似の皮膚症状がみられるにも関わらず、その病態は、見た目は似ても似つかない I 型アレルギーにより生じる蕁麻疹に近い要素があることが、「奇妙な」点だったともいえます。ただし、70 年前に Sultzberger が命名した時には、IgE は見つかっていませんので、この説明は当時の状況に即したものではありません。

#### 4. アトピー性皮膚炎の病態は、アレルギーというだけで理解できるのでしょうか？

アトピー性皮膚炎の病態には、「アレルギー的側面」と「非アレルギー的側面」があります。アトピー性皮膚炎において起こっている、アレルギー性炎症は、I 型アレルギーとも IV 型アレルギーともいえない、両者が合わさったような反応が想定されています。一方、アトピー性皮膚炎においては角質層のセラミドの減少などによる皮膚のバリア機能の障害が知られています。この両側面のどちらがより根本的な問題であるかは、現時点ではニトリが先か卵が先かの問題となってしまいますが、どちらも重要な病態であることは間違いありません。

#### 5. アトピー性皮膚炎は難病なのでしょうか？

アトピー性皮膚炎は年齢とともに自然によくなっていく予後のよい疾患です。決して、難病ではありません。遺伝的素因があるから一生治らないというのではなく、皮膚のバリア機能一つとっても年齢とともに移りかわっていきます。ただし、いつの時点でよくなっていくかについては個人差があります。

#### 6. アトピー性皮膚炎の治療は？

アトピー性皮膚炎の病態である「アレルギー的側面」と「非アレルギー的側面」を考えて治療をします。アトピー性皮膚炎における「湿疹症状」は炎症のため火事が起こっている状態です。火事は消火しないと、遷延し、あとに問題を残します。現在、最も有効な消火剤はステロイド外用薬ですので、適切に使用することが重要です。しかし、炎症がおさまれば、ずっと使う必要はありません。炎症がおさまれば、皮膚のバリア機能を強くするために保湿剤使用などのスキンケアが中心になります。

#### 7. アトピー性皮膚炎の根本治療はないのですか？外用療法なんて単なる対症療法では？

何か一つ注射をして根本的に治してしまいたいというお気持ちはよくわかります。しかし、アトピー性皮膚炎をある時点で完璧に治してしまう根本治療というものは、現時点では存在しません。遺伝的素因と上記の病態を考えていただければ、それらのある時点で完全に是正してしまうことは、困難であることはお分かりいただけると思います。しかし、アトピー性皮膚炎は治療により日常生活に支障のない良好な状態に保つことができる疾患です。そして、素因はあっても自然の経過で症状は治まっていく疾患であることを考えれば、その時点まで、きちんとした対症療法を行って良好な状態を保ち、普通の生活をして

いくことが、まどろっこしいようですが実際は最も理にかなった方法であることに気付かれるはず。対症療法と卑下せず、また根本治療という甘言には惑わされないように、もう一度考えてみてください。